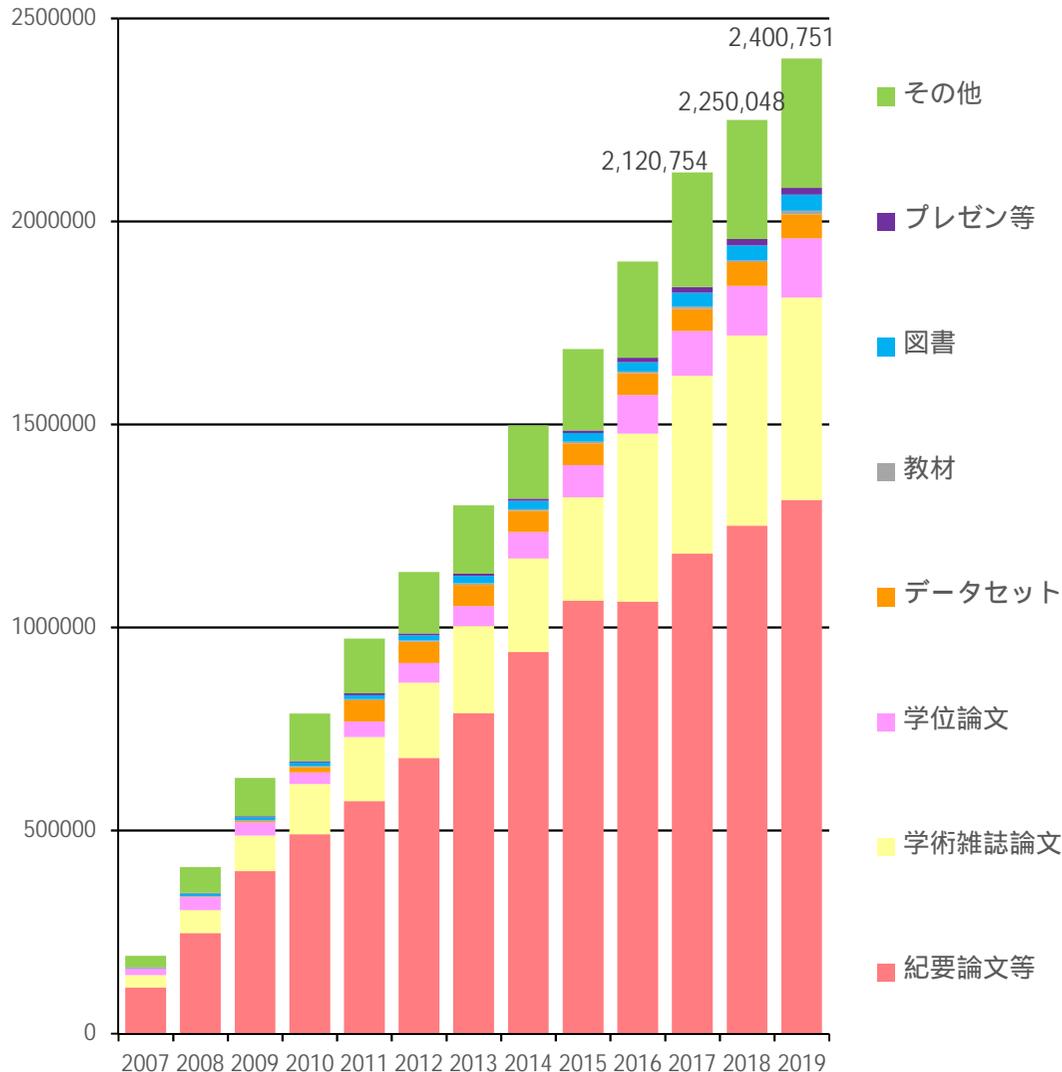


# リポジトリへの論文登録状況

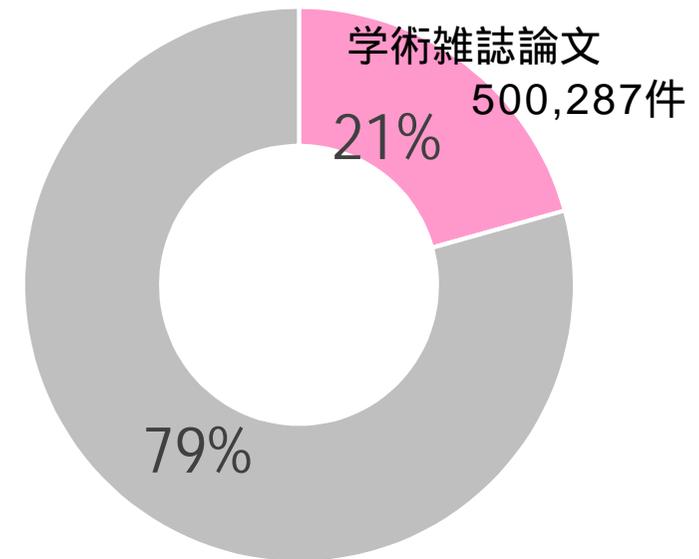
資料4  
科学技術・学術審議会情報委員会  
ジャーナル問題検討部会（第3回）  
令和2年6月15日（月）

機関リポジトリ登録データ数の推移（2019年度末現在）  
（タイトル等の情報だけでなく、論文本文等の情報を有するもの）



資料提供：国立情報学研究所

IRDB収集コンテンツにおける  
学術雑誌論文の割合（2020年4月30日時点）



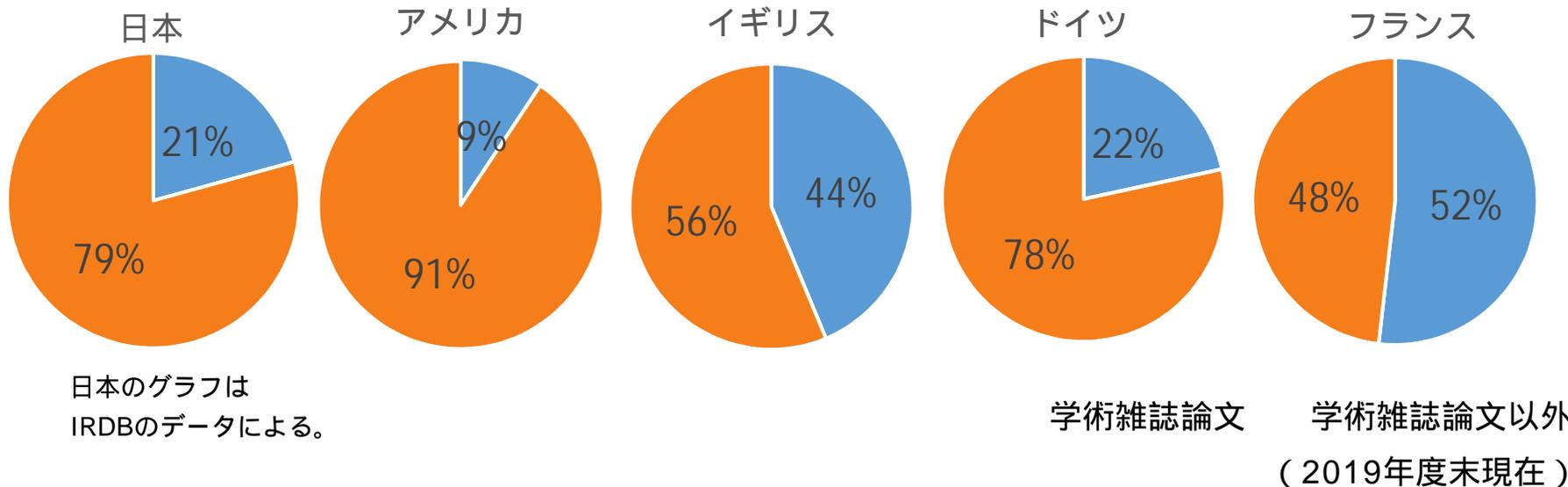
IRDB（学術機関リポジトリデータベース：Institutional Repositories DataBase）（<https://irdb.nii.ac.jp/>）は、日本国内の学術機関リポジトリに登録されたコンテンツのメタデータを収集し、提供するデータベース・サービス

出典：IRDB  
<https://irdb.nii.ac.jp/statistics/all?year=2020&month=4>

# リポジトリへの論文登録状況

## 全コンテンツあたりの学術雑誌論文登録率（各国比較）

- ドイツのビーレフェルト（Bielefeld）大学図書館が運用するオープンアクセスの学術ウェブリソース（<https://www.base-search.net>）によると、各国が構築したリポジトリにおける学術論文登載率は、アメリカが9%、イギリスが44%、ドイツが22%、フランスが52%である。
- 機関リポジトリにおける学術雑誌論文の登載が進まない原因としては、既にジャーナルで公表している論文の再登載となるため、研究者のインセンティブが必ずしも高くないことや、学協会の著作権ポリシーが定まっていない場合が多いことなどが指摘されている。



BASE: Bielefeld Academic Search Engine (<https://www.base-search.net>)

# 機関リポジトリによるオープンアクセス

- 「Unpaywall を利用した日本におけるオープンアクセス状況の調査(西岡千文・佐藤翔2020)」によると、直近の10年間に出版された論文は、日本、世界ともに概ね40%程度がオープンアクセス。(図8、図9)
  - リポジトリによるオープンアクセスは、日本、世界ともに概ね同じ傾向。近年は、日本の方がリポジトリで公開される論文の割合が若干高い。(図11)
  - 日本の論文のみを対象として、リポジトリの種別を見ると、機関リポジトリよりも圧倒的にそのほかのリポジトリの割合が高い。(図12)
- これらのリポジトリとしては、Semantic Scholar、PubMed、Europe PMC、arXivが挙げられるとしている。

Unpaywallは、オープンアクセスの論文情報を集約するサービス

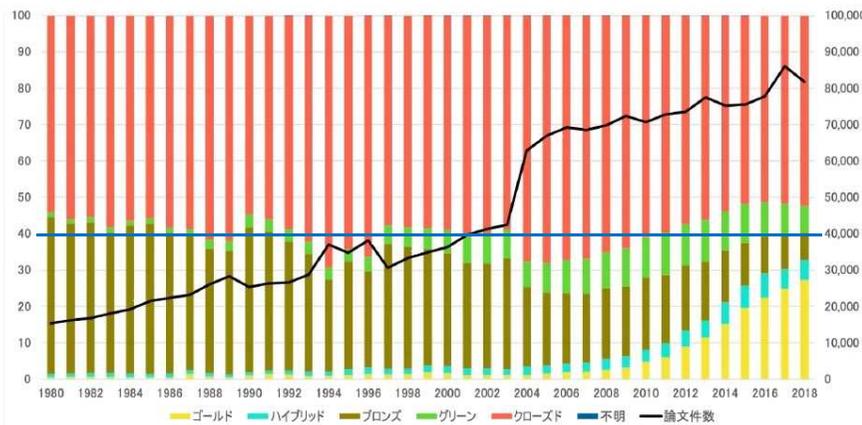


図8: 日本における出版年ごとのOA 状況

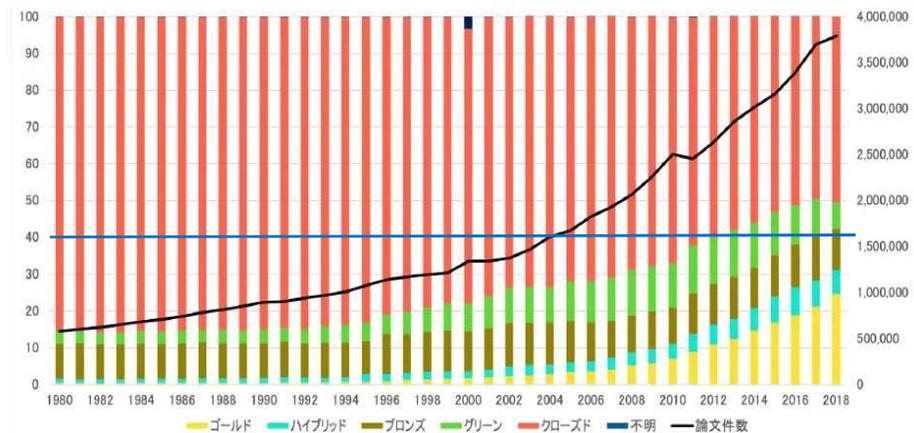


図9: 世界における出版年ごとのOA 状況

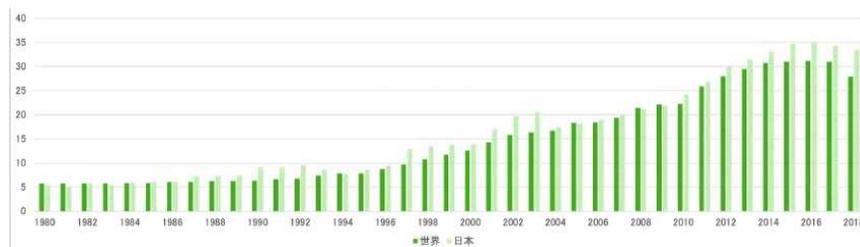


図11: 出版年ごとのリポジトリによるOA 状況

出典：<http://hdl.handle.net/2433/246424>

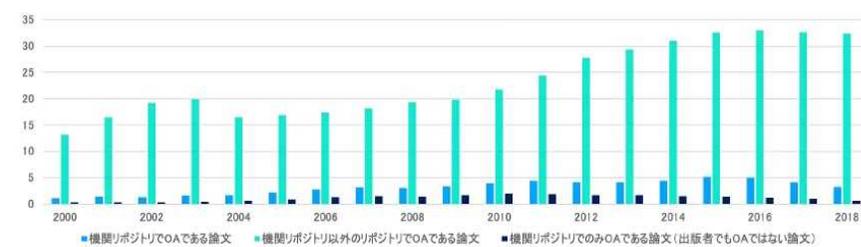


図12: 日本における出版年ごとのリポジトリによるOA 状況

# オープンアクセスポリシー策定状況

国立大学 (25機関)		公立大学 (2機関)	私立大学 (10機関)	大学共同利用機関 (2機関)	国立研究開発法人 (2機関)
大阪大学	東京海洋大学	大阪市立大学	沖縄科学技術大学院大学	国際日本文化研究センター	科学技術振興機構
岡山大学	東北大学	大阪府立大学	関西大学	国立極地研究所	農研機構
金沢大学	徳島大学		昭和女子大学		
京都大学	名古屋工業大学		白百合女子大学		
九州大学	名古屋大学		東京歯科大学		
神戸大学	奈良先端科学技術大学院大学		同志社大学		
滋賀医科大学	浜松医科大学		鳥取看護大学		
島根大学	一橋大学		法政大学		
上越教育大学	広島大学		北陸大学		
千葉大学	北海道大学		明治大学		
筑波大学	北陸先端科学技術大学院大学				
電気通信大学	横浜国立大学				
東京外国語大学					
					2020年5月現在

出典：  
[https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/index.php?page\\_id=53](https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/index.php?page_id=53)  
 (国立大学～大学共同利用機関分)